

SIP4D-ZIP

災害情報共有のための共通データフレームワーク

社会防災研究領域 総合防災情報センター／防災情報研究部門 花島誠人・磯野猛

Point

- 防災情報システム同士の接続における**情報共有のための国内標準規格**として防災科研が開発
- 日本規格協会より、**JSA規格「災害情報共有のための共通データフレームワーク—SIP4D-ZIP」(JSA-S1016:2023)**として発行
- SIP4D以外のシステム間の災害情報共有においても使用可能

概要

“SIP4D-ZIP”は、災害情報を共有するために必要な構成要素（情報種別、データフォーマット、メタデータ、プレゼンテーション・スタイル等）について統一した記述様式を定めた規格である。この規格を用いることによって、災害現場の被害情報、住民の避難状況、インフラの被災情報等の災害関連情報の共有を迅速化することを目的としている。データフレームワークとは、システム間でデータをやりとりするためのルール・手順を体系的に整理した“枠組”のことである。このデータフレームワークを正しく解釈する仕組みを情報システムに組み込むことによって、SIP4D-ZIP規格の範囲内で柔軟なデータの共有が可能になる。

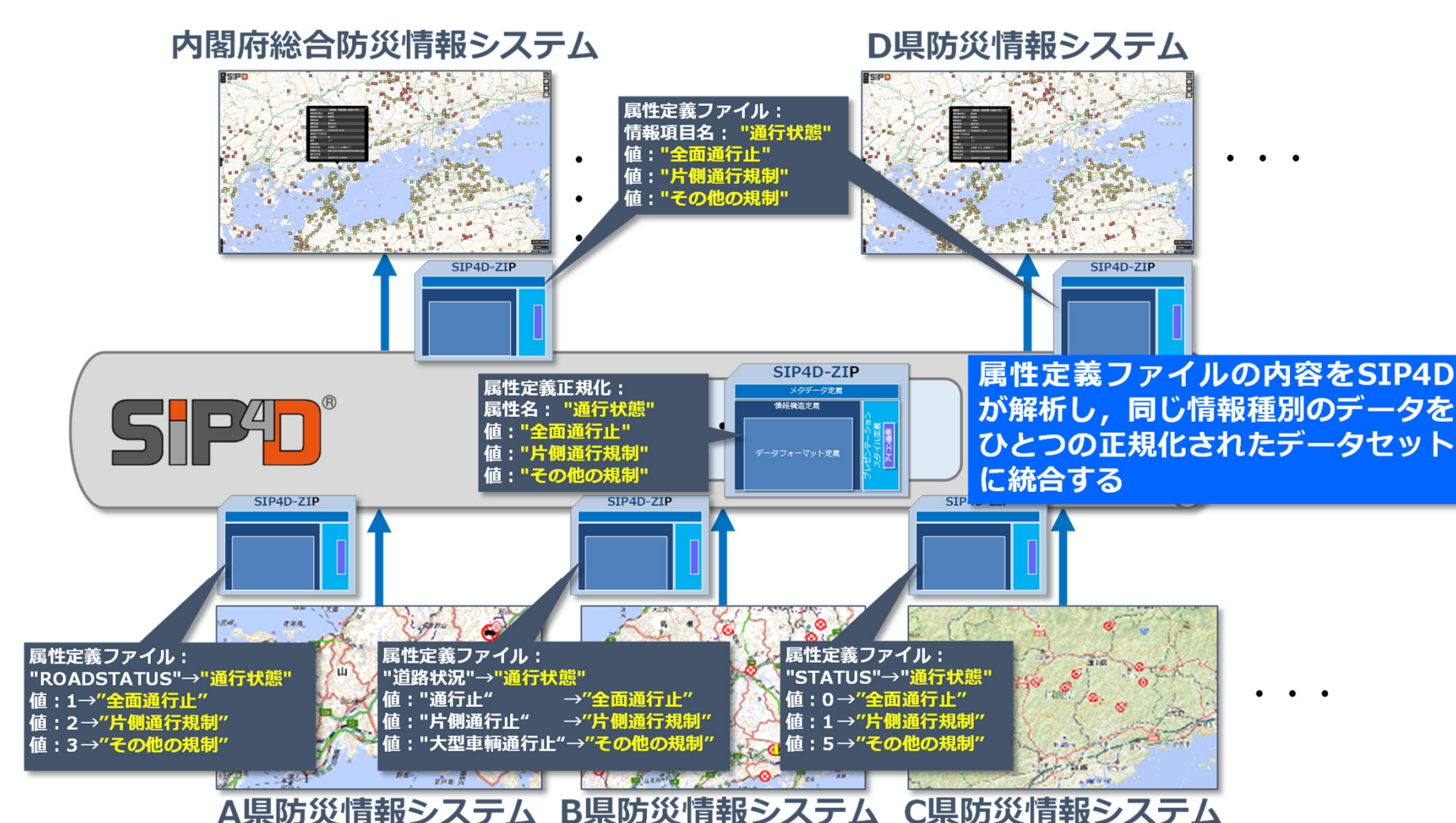
過去の大規模な災害対応においては、情報を電子データ化できたとしても、システムごとに読み込めるデータ形式が異なったり、データの意味を記述する共通的な形式がなかったり、といった事情により貴重な情報が十分に活用されないことがあった。

SIP4D-ZIPでは、このような状況を改善するために、事前に内容を取り決めていないデータであってもシステム間で受渡しが可能になるように規格に準拠したデータを生成

（エンコード）・解釈（デコード）する機能を設計するために必要となる仕様を定めている。

SIP4D-ZIPによって共有する情報の内容については、情報提供元組織と利活用組織間との協議によって任意に決めることができるが、本規格では、SIP4D-ZIPフレームワークを用いたデータ共有の実装モデルとして、“SIP4D-ZIP災害対応支援モデル”をあわせて規定している。

情報提供元システム又は利活用側システムの開発者がこの規格を使用することで、組織を越えた災害情報の自動的な相互共有が可能になる。今後も、大規模災害時における情報共有にかかる人的負荷を軽減し、災害状況認識の共通化を目指してSIP4D-ZIPの普及に努めてゆく。



SIP4D-ZIPによる災害データの「意味」の共有と論理統合の仕組み

避難所状況を例とした属性定義ファイルによる論理統合

